

生産性向上支援訓練カリキュラム(案)

機構施設名： 奈良職業能力開発促進センター  
 実施機関名： パナソニックエレクトリックワークス創研(株)

A. 生産管理	管理手法	製造分野におけるDX推進	主な受講者層
	募集コース名(任意)	デジタルものづくりで顧客の価値最大化を考慮した製造プロセス革新を実践しよう！	

コースのねらい	生産現場で用いられる各種製造装置や製造工程の監視・制御にICTやIoTなどのデジタル化を組み込むことにより、製品やサービス、ビジネスモデルの改革(DX)を推進して、生産性向上、ビジネス競争力を獲得する方法を理解する。
---------	--

到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・製造企業におけるDX推進の動向を知り、組織的なDX推進の方法を理解する。</li> <li>・DX導入は目的ではなく手段です。生産性を悪化させている課題解決や顧客の価値を創出すのために目的を定めてデジタル技術を駆使して継続的に推進することができるようになる。</li> <li>・組織的なDX推進のためにとるべき具体的な方策を検討し、製造DXの推進ができるようになる。</li> </ul>
------	---

講義内容	「基本項目」	「主な内容」	訓練時間(H)	
	1	製造業におけるDXの理解	(1)DXとは ・新しい価値を創造するDX ・製造業におけるDXが目指すもの ・なかなか進まないDX 【演習①】DX推進の現状把握/セルフアセスメント  (2)スマート化を目指す ・スマートファクトリ ・スマートプロダクト ・スマートサービス  (3)DXの狙い ・業務革新と顧客価値の創造 ・製造業におけるDXが目指すもの ・DX推進の課題認識 【演習②】DX推進の課題認識	1.0
	2	DX実現事例	(1)スマートファクトリ実現事例 ・製造部門におけるDXの紹介 ・デジタル技術で解決する事例  (2)DXで解決したいものづくりの課題 ・属人化した仕事の標準化 ・現場改善にも使えるデジタルツール ・QCD管理データの棚卸し  (3)データドリブンのものづくり ・全社最適で推進するDX ・開発～製造～サービスをデータで繋げる ・QCD管理データの棚卸し 【演習③】QCD管理データの棚卸し	1.25
	3	DX推進の目標設定と解決策	(1)ものづくりの課題抽出 ・課題を見える化 ・解決したい職場の課題 【演習④】 デジタル化で解決したい現場の課題  (2)製造分野のデジタル化 ・デジタル化を進める ・全体最適で推進するDX  (3)様々な課題をDXで解決する ・DX推進体制の整備 ・DXの目的、目標設定 ・業務革新、顧客価値創造に向けて 【演習⑤】記録データ活用の仮説検討	1.75
	4	DX推進の計画と実行	(1)データドリブンものづくり実践 ・PoCによるPDCA活動について ・計画と実績の見える化 ・データ収集、蓄積、加工  (2)社内部門連携で進めるDX 全社的横断的なDX組織づくり ・中長期DX推進の実行計画の策定 ・DXの推進 【(選択)演習⑥】DX推進マップの作成ORビジネスモデル構想  (3)社外資源の活用と連携 ・システム開発の手順 ・開発手法について  (4)DX推進人材育成と人材の確保 ・DX推進するために必要な技術と人材 ・人材育成の要点	2.0
	演習	①DX推進の現状把握/セルフアセスメント ②DX推進に関する課題認識についてのグループ討議 ③QCD管理データの棚卸し ④デジタル化で解決したい現場の課題 ⑤記録データ活用の仮説検討 ⑥DX推進マップの作成ORビジネスモデル構想		
			合計時間	6.0

カリキュラム作成のポイント
(1) 製造業においてDXが成功するために必要な要件を理解して頂きます。 (2) 企業におけるDX推進活動に有効な考え方を説明し、自社の今後のDX活動の構想が描けるように進め方を学んで頂きます。実際に考えて、グループ討議を重ね、議論することで新しい気づきを発見する。 (3) 演習を通じて、自社の生産プロセスを革新するためのDXの方策を検討します。